

### 3-8. 米子港

米子港は、弓ヶ浜半島の中海側の付け根に位置する港湾埋立地であり、北東側には旗ヶ崎工業団地、また南側には錦海団地などの造成地がある。

#### 1) 地形・地質概要

米子港は、中海と美保湾とを区切る弓ヶ浜砂州の中海側の付け根に位置している。弓ヶ浜砂州は、日野川左岸から中海と美保湾の間に突き出す全長 18km、幅 4km 前後の砂州であり、砂州の先端は境水道を挟んで島根半島に迫っている。砂州全般は、標高 TP+6m 程度以下であり、ほとんどが砂からなる低平地であるが、砂州の上の砂丘は TP+20m 程度を越えるものがある。米子港は海域を埋立造成した敷地である。

中海臨海地帯は、後期中生代火山岩類と火山岩類に貫入した花崗岩類とを基盤岩とした第三紀層が広く発達する。第三紀層の上位は、第四紀層が不整合に覆っており、第四紀層の上部は沖積層が分布し、沖積層の下位は洪積層が分布している。なお、沖積層の上位は、現世の埋め立て土層が分布している。

#### 2) 地質構成

図3-8. 1に近接する旗ヶ崎地区も含めて米子港周辺の既往の柱状図を対比して示した。地表面下には、埋立土と想定される緩い砂層が5~7m程度の厚さで分布している。この下には、軟弱な粘性土、砂質土が堆積している。全般に旗ヶ崎よりで軟弱粘性土が厚く分布する傾向にある。さらに、GL-30m付近から、N値>30程度を示す砂質土、礫質土が分布している。

#### 3) 被災状況と被災要因

米子港の被害としては、岸壁、護岸の背後地盤の液状化に伴う噴砂、陥没、亀裂等である。被災状況は、図3-8. 2の分布図(写真3-8. 1~写真3-8. 2)に示すとおりである。

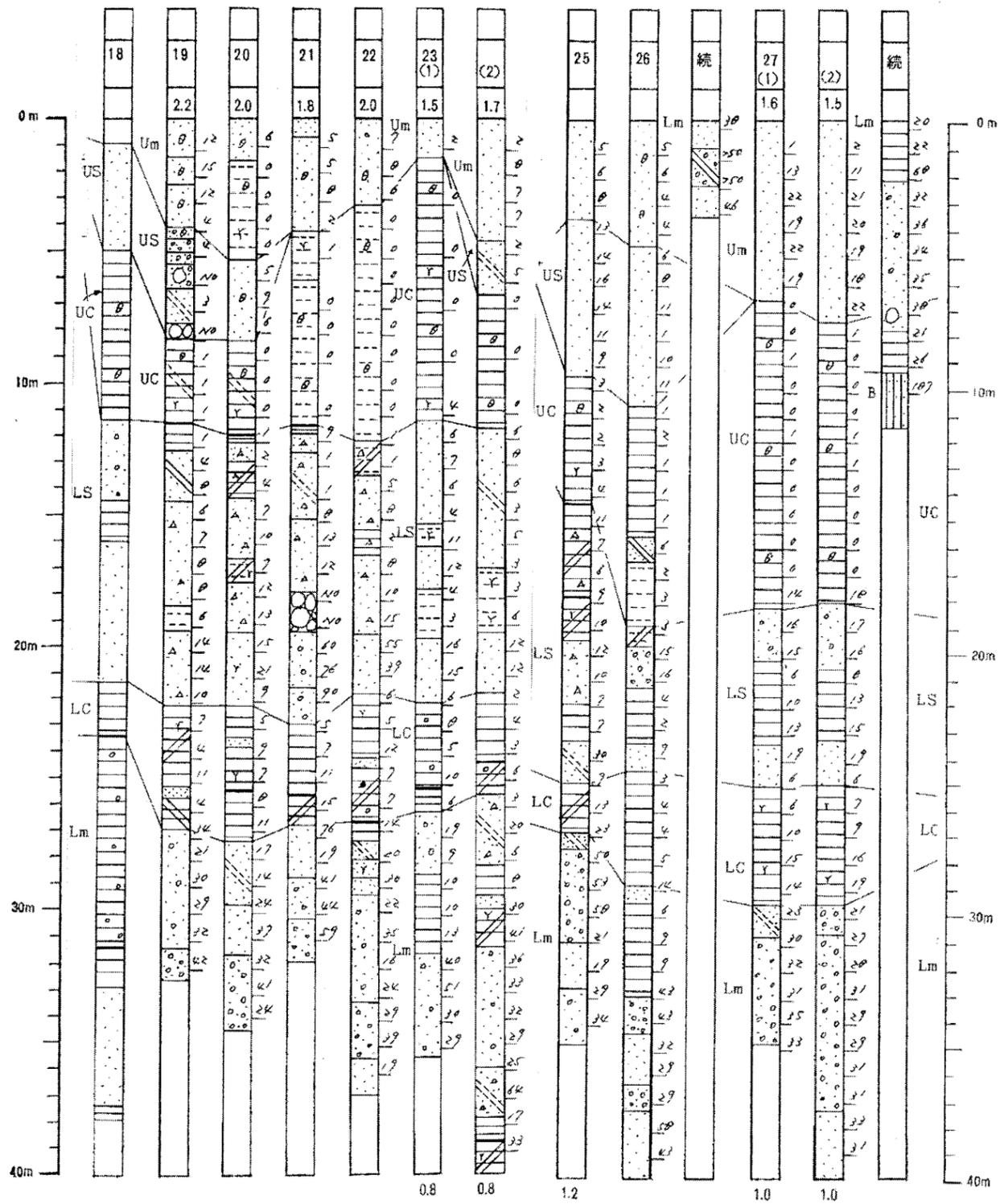


図 3-8.1 米子港～旗ヶ崎地区  
ボーリング柱状図対比図  
(「鳥取県地盤図」より)

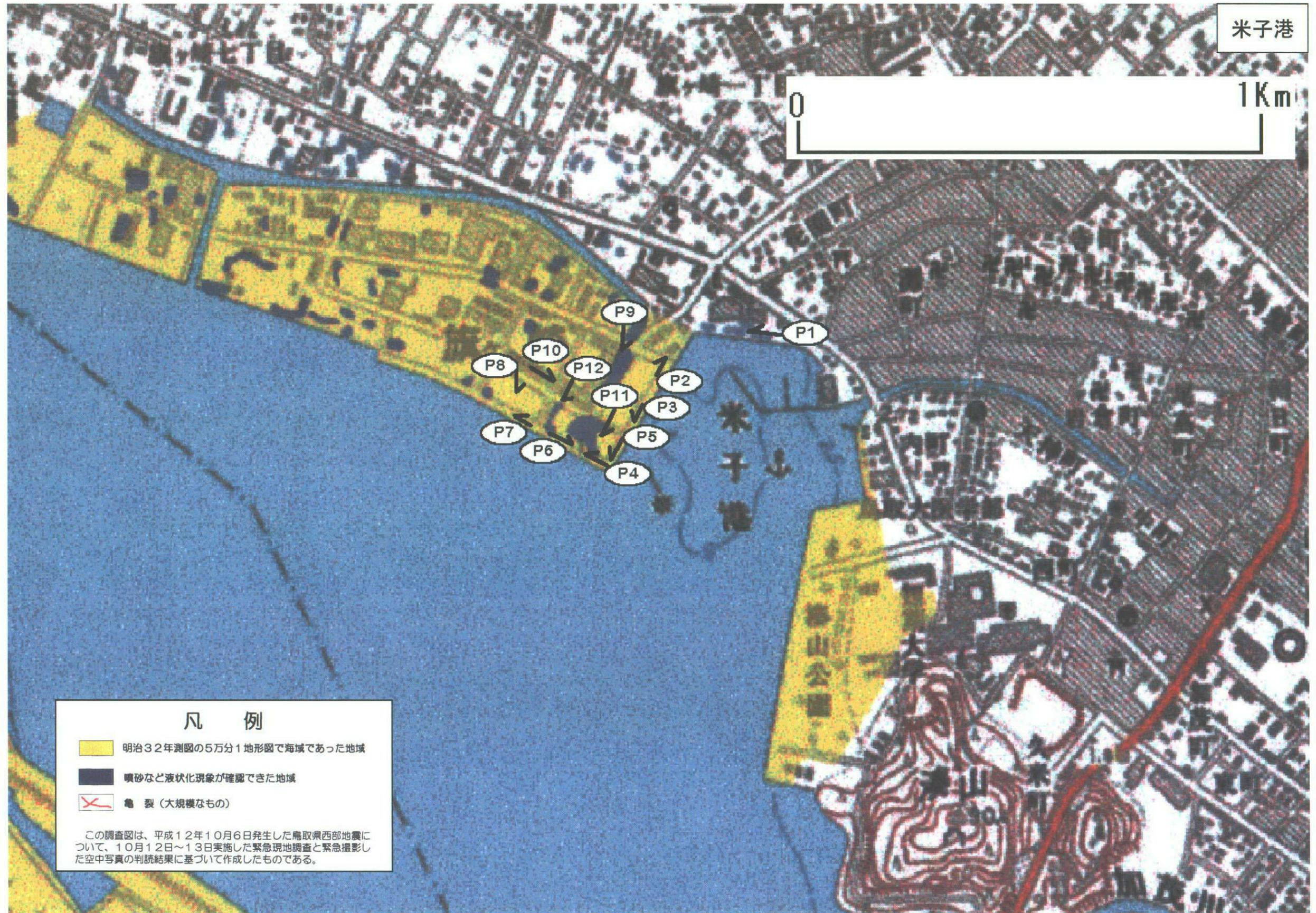


図3-8.2 液状化分布図<米子港>



写真-7 米子港 岸壁 (-5.0m) 岸壁背後の亀裂



写真-8 米子港 臨港道路 道路側溝部の亀裂

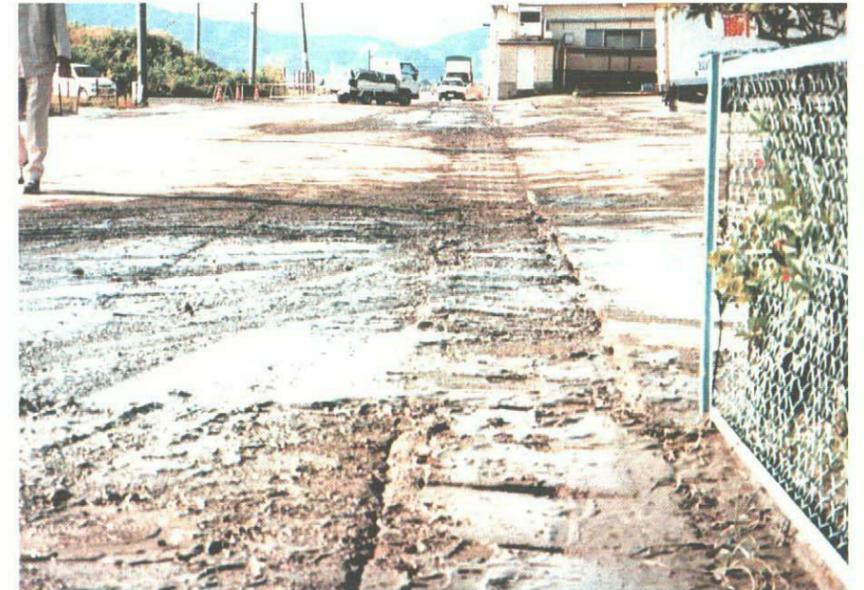


写真-9 米子港 臨港道路 亀裂から噴出した噴砂



写真-10 米子港 臨港道路 道路横断構造物のある所を除いた部分の沈下

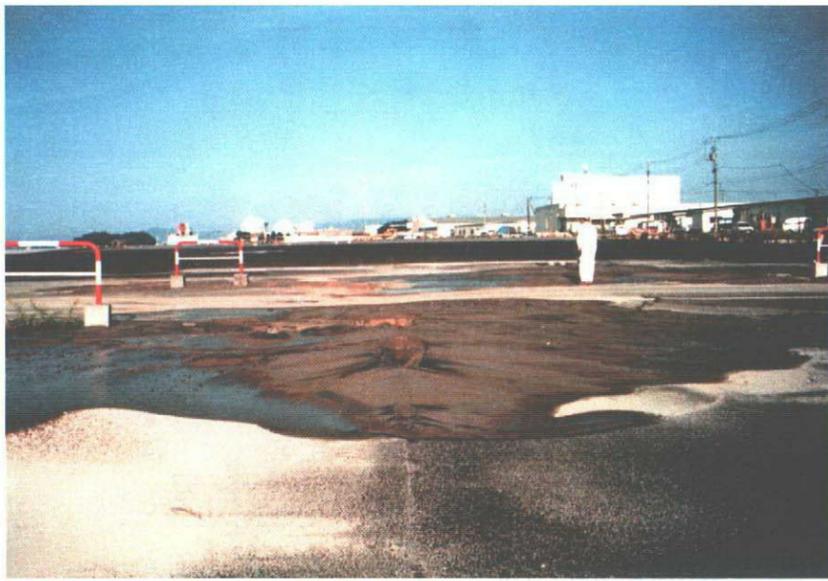


写真-11 米子港 野積場 噴出跡



写真-12 米子港 野積場 液状化によって生じた沈下

写真3-8.2 代表被害写真<米子港>



写真-1 米子港 岸壁 (-4.5 m) 背後の沈下



写真-2 米子港 岸壁 (-4.5 m) 背後道路の亀裂



写真-3 米子港 岸壁 (-4.5 m) 背後の沈下



写真-4 米子港 物揚場 (-3.0 m) 岸壁法線の被害



写真-5 米子港 物揚場 (-3.0 m) 岸壁背後の沈下



写真-6 米子港 岸壁 (-5.0 m) 法線のはらみ出し

写真3-8.1 代表被害写真<米子港>